

# 教専寺新聞

「いのち」



教専寺HP

令和五年十一月号

No.240

## 教専寺四百年

今月十一月二十三日で「教専寺」の寺号をご本山（本願寺）より  
いただいでちょうど四百年となります。

四百年前の元和九年（一六二三年）は徳川家光が三代將軍に就  
任した年です。元和元年（一六一五年）には大坂夏の陣により豊臣  
氏が滅亡し、平安時代から永く続いてきた戦乱がようやく鎮まり、  
平和の世が始まろうとしていました。

私たちのご先祖様方は親鸞聖人のみ教えに導かれて、よろこびや  
悲しみを抱えつつ、お念仏とともに歩いて来られました。

このたびの寺号公称四百年を尊い仏縁と頂戴し、お慈悲によって  
お育てをいただくこの身のご恩をご一緒にかみしめたいと思います。

### 今月の予定

【おみがき(仏具のおそうじ)】

19日(日)午前9時より

【報恩講法座】

22日(水)午後1時半より

23日(祝)午前10時より

【仏婦例会】

20日(月)午後1時半より

【清掃奉仕】

毎週金曜日午後2時より

### 【教安寺(田方)報恩講法要】

26日(日)午後1時半より

本名アナウンサーの講演会が開催され当日は100名  
近くの方にお越しいただき、放送界の裏話あり、カーブ  
の話あり、皆さんと一緒に笑いながら楽しい時間を過  
ごさせていただきました。かわいいクッキーとコーヒー  
も美味しかったです。うちの子どもたちは本名さんのT  
シャツがミッキーだったことに注目。娘さんからのプレ  
ゼントだそうです。教専寺ホームページに写真を掲載  
しています。上記のQRコードより読み込んでください。

## 仏さまの方へ向いとつたら

米どころのふるさと富山では、十月に入ると食卓に新米が上がる。そして報恩講がつとまる。思えば亡き父から、この時期につとめられる「在家報恩講」の大切さを何度も聞かされた。ふるさとの村では門徒全戸が丁寧に行く。

明治生まれの大田ひろさんが「こんな、どないもならんわがまま婆あを引き受けて必ず救うとおっしゃるんやから、せめて万分の一でもご恩報謝させてもらわにやあ。乱れきった今の社会で不足しているのは、ただ掌(てのひら)を合わすこと。そして同じ方、仏さまの方へ向くこと。みんな自分本位の勝手な方に向いのから対立したり争ったりするんですよ」と語っていた。

さらに大田さんは、人と人の接し方の向きには三つあると続ける。「互いに背を向けていたら、相手の気持ちかわからないし、自分もわからなくなる。互いに向き合って話すのもいいが、同じ家族で考え方も違し、我を張りおうて言い争いもする。仏さんの方へ向いとつたら、それぞれ思いの違う者同士が一つになれる。お慈悲さんの中ではみんな兄弟、これが在家報恩講のこころではないがけ」。

お念仏に出遇う慶びを伝えてくださった親鸞聖人に感謝する報恩講。先に亡くなった方々の思いや願いをいただきながら、阿弥陀さまに掌を合わせ、お浄土で仏と成るといふ人生を送る身にお育てくださったご恩を大切に味わわせていただきたい。

本願寺新報二〇二三年十月十日号「赤光白光」より

